

第20号

会報 めいおんの会

発行 平成29年11月25日

「めいおんの会」(名古屋音楽大学出身教員の会)

事務局 名古屋市緑区大清水四丁目522

TEL・FAX (052) 877-1243

発行責任者 会長 百草 薫

“新学習指導要領を読み解く”② この夏以降の私と学習指導要領とのかかわり

名古屋音楽大学特任教授(教職担当)
吉川 範行

- 文科省が新学習指導要領の教科別解説編を6月に公表していたことに気付かず夏を過ごしていました。9月に入って必死になって読んでいた自分がいました。まだお読みでない先生方はぜひ解説編をお読みください。
- 8月31日に音楽之友社から出版された「高倉先生の授業研究ノート」の第6章には「何が変わって何が変わらないか？」という新学習指導要領の記載があります。ここでは、現行と新しいものとを比較し、「内容ベース」と「資質・能力ベース」という表現や「文言が変身」とか、「まだある新しさ」などの表現で要点が分かりやすくまとめられています。
- 10月に入り、2年生音楽科教育法の学生による模擬授業を見ていて、あることに気づき学生にも伝えました。それは、現場の先生が無意識で行っておられる「子どもの音楽性を引き出す弾き歌い」が学生にとって大きな課題になっている現実でした。ノンバーバル・コミュニケーション(言語以外のコミュニケーション)の重要性をここでも学ぶことができました。前回お示しした書籍では、指揮体験からノンバーバルを学ぼうという内容でまとめられていましたが、「息を伝える」ことが「思いを伝える」ことであり、弾き歌いによる「音を伝える」ことも同じ働きを持っていることを実感しました。「他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてその良さや価値等を考えたりしていく学習の充実を図る観点から音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り……」と解説編では述べていますが、ノンバーバルを含めて言語活動の充実ととらえているように思えます。
- 10月上旬、4年学生とともに愛知教育大学附属名古屋小学校の公開授業に参加しました。市江真理子先生の6年生実践「雅楽越天楽を取り上げた授業」でしたが、当日の学習指導案の目標と評価が「知識・理解、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性など」に基づいて記載され、指導案の全体構想が新学習指導要領の方向に合わせたものになっていました。具体的な学習指導案の新しい様式例を見せていただいた一日となりました。
- 10月下旬、東海北陸小中学校音楽教育研究大会が金沢で行われました。ここでは継続研究してきたテーマ「ときめき ゆらぎ そしてきらめく」を、主体的・対話的で深い学びの視点でとらえ直す研究が公開されました。授業実践では、「主体的に学ぶための工夫」と、「他者と協働し学びを深めるための工夫」の2点を重点として授業改善を図る発表が行われました。文科省教科調査官の講演についても、2か月後の1月13日に音推協の特別講座で最新の情勢をお聞きできるため、じっくり耳を傾けたいと思っています。
- 何気ない中に、新しい学習指導要領を意識した取り組みが身の回りで、多く見られるようになってきました。不易の部分大切にすることを忘れず、変わる部分を敏感に感じ取ることのできる力を育てていきたいものです。

＝編集室＝

◆夏の研修会に参加された先生方、ありがとうございました。松下先生出演の「アイダ」の映像を使って、研修での話を交えながら授業をされた先生もみえると聞いています。何か子どもたちの心に響くものがあったことと思います。「旅立ちの日にもぜひ原曲と比べさせてみてください。◆会員の皆様からお寄せいただいた歌唱指導に関する質問を、指導の一例としてQ&Aの形で後日HPに掲載する予定です。◆新学習指導要領に関する書物が目につくようになりました。早めに情報を入手にして、移行措置および全面実施に備えたいものです。(ゆ)

総会・研修会・懇親会

8月20日(日)名古屋音楽大学 ホールDO (総会・研修会)、学園食堂(懇親会)

総会では、会則に従い、会長の選出・役員の委嘱を行いました。昨年度の事業報告、決算報告並びに本年度の事業計画案、予算案が承認されました。

研修会は、『空間をふるわせる声』と題して、名古屋音楽大学音楽学部長の松下雅人先生を講師にお迎えして行いました。

第1部ではドイツ・ボン歌劇場での体験を交えて、映像や画像を見ながら、オペラについての解説や魅力についてお話をいただきました。その中では、個性的な共演者のことやギャランティーについてなど、裏話も聴かせていただくことができました。お話には共演されたグルベローヴァ女史だけではなく、カラヤンであったりメトロポリタン歌劇場であったり、世界的な名前がいくつも登場し驚くばかりでした。また、先生が出演された「アイーダ」の映像を見せていただくことができ、研修会後には「授業で紹介したい」という、中学校担当の参加者からの申し出を快く引き受けていただけました。



そして、合間にはオペラアリアのミニコンサートがありました。ソロのリヒャルトシュトラウスはもちろんですが、名音大の卒業生のソプラノとのデュエットでモーツァルトやガーシュインなど、多彩なプログラムで素晴らしい歌声を聞かせていただきました。

第2部は、現在はプロとして活躍する、卒業生がアレンジした「旅立ちの日に」を教材として取り上げ、合唱の指導をしていただきました。聞きなれた合唱曲でしたが、伴奏のリズムやコード進行などで、ジャズの雰囲気がとてもよく出ており、新鮮な響きを楽しむことができました。特徴のある和音進行のため、音取り

に苦労しましたが、名音大の学生の方々の応援もあり、ソプラノサクスのオブリガートを加えて、最後は全員で合唱を楽しむことができました。一流の音楽家の方から、お話を聴き、演奏を聴き、教えていただき、そして一緒に歌うことができます。本当に贅沢な時間を過ごすことができました。

懇親会は、講師をしていただいた学部長の松下雅人先生、学長の佐藤恵子先生、教職指導室の柴田篤志先生、教職担当の吉川範行先生にもご参加いただきました。和気あいあいとした雰囲気の中で、研修では話さなかったお話を伺うことができました。また、新たに教職に就かれた方々からの初々しいお話を聞いたり、会員の皆様から寄せられた歌唱指導で抱えている課題などについて情報交換をしたりして、有意義な時間を過ごすことができました。

